

先祖彼岸大供養会

9月21日(日)午前9時半より



轉法輪

若し惠眼を以て
之を観すれば、
一切の衆生は
皆是れ我が親なり。

平成二十六年九月六日発行
発行所 犬飼山 轉法輪寺
〒六三七一〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七一二三一四四〇三
FAX〇七四七一二五一四七一七
編集発行人 桑山聖淳
印刷所 和・伊都郡かつらぎ町妙寺
森本印刷工業所

賑やかだつた蝉たちが去り、朝
晩に秋の涼しさが訪れていています。
来る九月二十一日(日)は、お彼岸
の法会を催します。ご先祖さまに
感謝の誠を捧げましよう。合掌

秋のお彼岸法会

九月二十一日(日)

彼岸供養会 午前九時半より
本山布教師さまの法話

午前十時半より

橋本高校邦楽部・琴の調べ

午前十一時半より

犬飼山 轉法輪寺

台風、集中豪雨によつて被害を受けられた皆さんに、心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早い復旧をお祈り致します。

〈お大師さまのお言葉〉仏の智慧の目で世界を見れば、生きとし生けるもの全てが私の親兄弟である。
我々は一人で生きているのではなく、生かされている存在なのである。

轉法輪

念珠で数を取ります。胸の前に念珠を両手で持ち、右手の方に繰り進みます。本連念珠（百八玉）の場合は親玉と親玉の間を往復して百八返。これを十回繰り返して千返とします。

自己の滅罪生善（自分の罪が滅して、善い願いが叶えられますよう）、全ての人の幸せを念じ、心願成就を祈ります。

次、十三仏真言・光明真言

次、回向

○何故千返なのか？

真言行者の修行の念誦数は、一座に千返が基本です。これを何回も繰り返すことにより、行者自身が浄められ、やがて阿闍梨（一人前の僧侶）となります。一般在の方にも、この素晴らしい体験をして頂きたいのです。

我々は、行法に没頭している状態

を、「三昧」といいます。それを日常で言えば、テレビに熱中している時はテレビ三昧、名曲を聴けば名曲三昧となります。知らぬ間に私達は「三昧＝融け合いの世界」に入っているのです。ですから、お大師様に向かって懸命に御宝号を唱えていれば、知らぬ間にお大師様との距離を忘れ、不思議な暖かい光の中に抱かれていることに気づきます。この瞬間こそ三昧であり、遠い過去一切の罪障の消えゆく瞬間です。この時を何度も経験することにより、日々の愚痴の言葉が少なくなり、喜びと感謝の世界へと繋がるのです。

如来様、お大師様のお力は無量・無辺です。祈るところに必ず、救いと開運があります。この御宝号千返念誦こそ、私たちが悟りへと至る、最良の方法であるといえるでしょう。

合掌

名譽住職 桑山 聖規

【第四十三話】

生かせいのち



目連尊者の
古話に学ぶ

お釈迦さまには多くの弟子がおりましたが、その中でもお釈迦さまが特に信頼を置いていた十人の弟子

轉法輪

のことを「十大弟子」と呼びます。今回はその中でも「神通力第一」と言われた目連尊者の話をしましよう。

あるとき目連尊者は、神通力を使つて亡き両親を探しました。すると、父親は極楽浄土に往生していましたが、母の姿が見当たりません。「もしや〈三悪道〉に落ちていらないだろうか」と思い、見つけたのは餓鬼道で痩せ衰えた姿でした。

餓鬼道は、少しの食べ物を取り合つて争う、痛ましい世界です。哀れに思つた目連尊者は、神通力でたくさんの食事を用意しました。「さあお母さん、お食べください」と差し出したものに母親は大変喜んで、他の餓鬼たちに見つからないよう、袖で隠して一人食べようとしました。しかし口に運んだその時、食べものが突然に燃え出しました。目連尊者は

火が消えるよう祈りましたが、神通力は通じず、食べ物はどんどん炭になつてきます。結局母親に食べてもらうことは出来ませんでした。

目連尊者は母を救つてくれるよう、お釈迦様に助けを求めました。お釈

迦様はこの様子を見て、次のように言われたのです。「その方の母は、現世の欲深さの報いを受けている。わが子可愛さのあまりに、財を集めて自分たちだけが贅沢をしたのだろう。他人に施すことを忘れた生活が、今

の姿につながつたのだ。母を救いたければ、安居（夏の雨季の修行）が終わつた僧侶たちを招いて食事を接待しなさい。それが功德となり、母は救われるだろう。」

目連尊者は言われたとおり、五百人の修行僧を招いて、お釈迦様の教えを実行しました。その功德によ

り、母親は餓鬼道から極楽浄土に往生することができたのです。目連尊者は喜んで「よいかな、よいかな」と歌い踊つたそうです。これが今日の盆踊りの始まりだと言われています。

私たちはどうでしょうか。自分たちだけが安穩としていられれば良いという気持ちを持つのは、今も昔も変わらずあるように思います。自他ともに栄える助け合いの心が、お釈迦様の示された道なのです。

宗祖弘法大師も、世界の平和とすべての人の幸福を祈つて入定されています。千二百年たつた今も、この誓願は変わることなく祈り続けておられるのです。この大きな望みが仏菩薩の心です。私たち仏弟子もこの心を見習い、出来る限りの功德を積んでまいりましょう。

心に宝を—13—

「町石道を歩いて」



橋本市
宝形山 地蔵寺

井 上 覚 善

七月の下旬に、小六の娘の夏休みの自由研究にと思い、昔からの高野山への参詣道である「町石道」を歩くことになりました。猛暑が連日続いていたなかでの登山となりましたので、正直、娘よりも私の方が自信はありませんでした。

当日、午前三時に起床、午前四時半に九度山の慈尊院を出発しましたが、先ず最初の一時間位が、普段あまり歩き慣れていない私たちにはとてもきつくて、雨引山の展望東屋に到着した時には、娘と顔を見合わせ、「しんどいなー。登れるかなー。」と苦笑いして、雲の切れ間からの神々しい御来光に手を合わせ、持参のおにぎりを頬張りました。

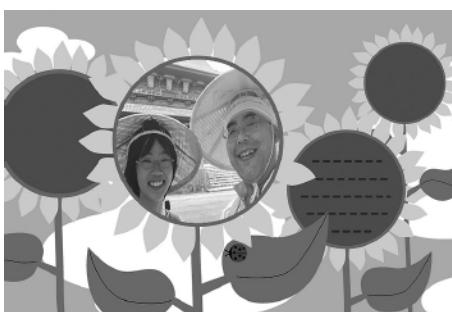
そしてお腹が満たされるとまた元気も湧き、一町毎の町石を押し、石に刻まれている残りの町石数が減っていくのを励みに、娘の手を引っ張つたり、またりゆっくりと登り続け、スタートから九時には引っ張つてもらいながら、ゆっくりと登り続け、スタートから九時後の一時半頃、高野山入り口の大門へ無事にたどり着きました。そして檀上伽藍の町石道の起点である「一町石」を押し、宿坊の大円院で宿泊。夕食は美味しい精進料理と、これまた最高に美味しい大好きな泡般若を堪能し、瞬く間に就寝。明朝は本堂での朝勤行にお参りし、帰りは快適なバスとケーブルカー・電車に乗り、有難さを噛み締めての帰路となりました。

そして今回の町石道登山をさせて頂き感じたことは、『登山』は人生に非常に似ているのではないかという事です。今、私たちは皆、人生という名の登山の最中でありますし、登る方法は色々あります。そして道中には快適な道ばかりではなく、時に急な坂道もあつて苦しかったり辛い事もあります。そしてまた「この苦しみは一体、いつまで続くのだろう。」という様な場面もありますが、それでも、ゆっくりとでも休みながらでも、一歩一歩、歩んでもさえおれば、やがてはゴールが観えてきますし、必ず辿り着くことが出来ます。

ご先祖さまは、直接の姿形は見えませんが、常に、燐々と輝くお天道さまや涼やかなお月さまとなり、また煌く星々や吹き抜ける爽やかな風となつて、私たちを見守つてくださっています。人生といふ登山は、登つていてる最中はとてつもなく長く感じ、先が見えないようにも思いますが、いつかは誰しも必ず終点のゴールに辿り着きます。

そして振り返ったならば、きっとどんなことも一瞬の思い出となつています。

自分の心と、見守ってくれてあるご先祖さまに恥じない道をしつかりと歩んでいきたいのですね。合掌



轉法輪

光を求めて

西吉野町和田 光明院

住職 岩井恵照

最終話（先号の続き）

轉法輪の紙面で名譽住職がおつしやつて、いるように、大自然の中に生かされている私たちの生命は、人智の限りを尽くしても創り出すことは出来ません。科学や医学がどんなに進歩しても、血の通つた人間を創り出すことは出来ないのです。

妊娠初期の血液検査でダウン症などの異常が解るようになり、中絶するケースが増えているようですが、「世の中に障害者はいらない」と障害者の存在を否定されているようで、親として、とても悲しくなります。そもそも障害者は、本当に排斥されなければいけない存在でしょうか。障害者は世の中に生まれるべくして生まれるとは、考え

られないでしょうか？
△受胎・出生△の神祕を思う時、障害者の誕生は、仏さまの御心ではないか、と私は思われるのです。

書道家の金澤祥子さんも、ピアノ演奏家の大江光さんも障害を背負つていますが、その障害をバネにして努力を重ね、その道を極められました。もしも、妊娠初期に中絶されていたら、あの力強い素晴らしい字も、流れるよ

うな滑らかな旋律も、私達の目や耳に届かなかつたのです。私の子どもも含め、障害児が中絶されていい存在とは、とても思えません。

でも、障害児が生まれれば、私と同じように落ち込み、わが子の障害を受けて入れてからも、子育てに四苦八苦する親が生まれることになります。もちろん、障害児を育てることは悲しみや苦しみばかりではなく、色々お話ししましたように、良かったことや嬉しかったこともいっぱいありました。それでも、やっぱり同じ苦悩を味わう親は

一人でも少ない方が良いと思うのです

……。

ああでもない、こうでもないと、いつも重い、深い課題で、私ごときが語り尽くすことは到底できません。

皆さまもいろんな立場からじっくり考えていただき、障害者に温かいやさしい手を差し伸べていただきたいと存じます。弱者をやさしく包み込むような温かい社会になつて欲しいと願っています。

完



大いなる

御手の中

(上編)

須藤脩鵬

私は、高野山真言宗の尼僧です。現在高野山におります。

かつて転法輪寺様におられた坂田淳光先生が寮監として指導にあたられていました高野山尼僧学院で、一年間学ばせていただきました。

当時、長らく美術の教員として触れてきた画材が原因で『化学物質過敏症』と診断されたのです。「治療法なし」と言われ途方にくれておりました。が、尼僧学院の加行を通じて、大量の汗で解毒し、奇跡的に回復しました。「石油で出来た全てのもの（つまりパソコンや携帯電話などのプラスチック製品や化學纖維など何もかも）に反応し触れることができなくなる」と医師から告げられた絶望からの回復でした。そんな私にとつてお大師様と尼僧学院、坂田先生は命の恩人なのです。

坂田先生はお経の考え方から行法に

至るまで、尼僧としての全てを、尼僧の方を懇切丁寧に、しかも凜とした厳しさと深い慈愛をもつてご教示下さいました。かつての尼僧学院は、ひたすらにお大師さまへの『眞(まこと)』を捧げる、一本筋の通った神聖な空間でした。同時に懐かしい故郷のような存在でもあります。今でも私にとつて坂田先生は尼僧学院そのものであり、先生は私が最も尊敬する尼僧さまの一人です。

その坂田先生のご縁で私は転法輪寺様にもご縁を頂きました。

平成十八年、桑山聖規名誉御住職様が、青森県八戸市の私の友人である元同僚の数学の先生の娘さんの周りに水をふらせた「地の神・水の神」を「八戸大弁財天」として昇天させた折、八戸に同行して法要をさせて頂きました。同僚の先生の家中に現実に毎日水が降り、それを祈りをもつて桑山先生は見事に止めたのです。三沢空港に降り立つ時、雨模様の中、桑山先生と私が乗った飛行機の来るところだけが晴れていて本当に驚いたと、後で友人の先生は話

していました。

我が家は四百年前から津軽藩に仕えた武士の家系です。古い家ゆえ、御因縁も深く、数年前、墓石整理の折、ご先祖さまのご供養のため「宝篋院塔(ほうきよういんとう)」を建立することができます。ここでも墓相に詳しい桑山先生の御指導を仰ぎました。

その後数年前の秋に、秋田に住む兄が甲状腺に異常があり手術が必要となり入院しました。その際も、桑山聖規名誉御住職様に御祈祷をお願いし「お不動様がご守護下さるとお声があつた。大丈夫、心配いらない」とお答えを頂きました。入院後、明日手術当日というのに、五年も経過観察し何ヶ月も前から手術について説明されていたにもかかわらず、何故か実際に手術を担当するお医者様が急に異論を唱え出し、結局そのまま退院し、大学病院にも相談し、一ヶ月、数ヶ月様子を見ることがとなり、ついには、翌年の四月「手術は必要なし」となって現在に至っています。実に不可思議、なんというおかげでしようか。

(中編に続く)

**キユウリ加持の
おかげをいただいて**

和歌山県橋本市

H · K

今年の七月のことでした。急に主人の足が痛みまして、仕事を休まなければならぬようになつたんです。整形外科にかかりて、リハビリはしていましたが、やつぱり悪くつて。そしてけれど、そこで、身体の悪いものを取ってくれるという、キユウリ加持のことを知ったんです。普段はわりと無信心な主人も乗り気でね。一緒にお参りして、そのあと家で一生懸命に拌んだんです。

お不動様やお地蔵さま、お大師様に一心にお祈りした心が通じたんでしょか。今はかなり回復して、仕事に復帰できるようになつて。私は昔から、ずっと仏さまにおすがりしてきたんです。心を受け止めて頂ける仏さまに感謝の心をもつて、みんなの幸せを願つていきたいと思います。

**九月二十八日(日)十一時頃から
護摩供法話
仏足頂礼—被災者に寄り添う**

高野山足湯隊代表

辻 雅 榮 僧正

我々僧侶は仏さまを拌む時、仏さまの御足を礼拝する真言をもつて始めます。今回お話を頂く辻僧正は、被災者の方々の足を、仏の足だと捉えて頂礼し、心に寄り添い癒す活動を続けてこられました。被災者の傷ついた心に、新たな生きる力を呼び起こす支援者の姿勢とは。足湯の実演も予定しています。ぜひご参詣下さい。



秋の四国巡拝のお誘い

讃岐一国、高野山お礼参り

七十一番弥谷寺～八十八番大窪寺で結願、
高野山へのお礼参り

詳細は寺務所までお問い合わせください！

日時 平成26年10月29日(水)
～11月1日(土) 3泊4日

旅費 64,000円

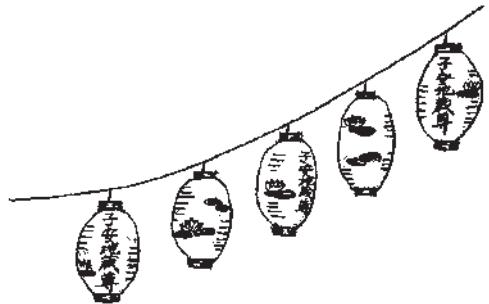
(増税のため、やむを得ず値上げを致しました。
どうかご了解ください)



○轉法輪に投稿しませんか？体験談や日々のことなど、仏さまにまつわる感謝のお話を募集しています。

地蔵尊大法会盛大

去る7月24日



朝早くからたくさんの方に
お参りいただき、
ありがとうございました
心より御礼申し上げます。



参拝者全員で、教堂から地蔵堂まで
手送りで御聖灯をつなぎました。



子どもを抱えてやさしく微笑む、
地蔵堂のお地蔵さま。



ああきな声で歌ってくれた
子どもたち。毎年出てくれている
子どもさんの成長を見るのも楽しみの
ひとつです。



教堂をたくさんの提灯で荘厳し、
理趣三昧法会を行いました。

轉法輪

(10)

昭和五十九年に高野山専修学院を卒業、
神戸須磨寺に奉職。平成元年に椿堂に入
寺する。
自坊でお遍路さんと触れ合ったわら、
岡山県のハンセン病療養所に関わる活動
に従事。
平成二十一年に癌で胃を全摘出する手術
を受け、改めて生きていることの有難さ
を知る。

『プロフィール』

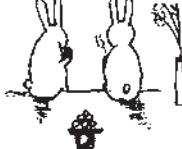
四国番外札所十四番 椿堂常福寺
本山布教師 田中鐘暁 僧正

「生かせ命」

十時半より

法話

九時半より
九月二十一日(日)



先祖彼岸

大供養会

九月二十一日(日)

九時半より

丹生、狩場明神感謝祭

十月十六日(木)

午前十時より

御授戒会

十一月二十一日(金)

午前九時半より

お大師様を高野山に導いた、当山鎮守
の狩場明神様・丹生都比売明神さまを
お祀りし、感謝の法要を営みます。

琴の調べ

十一時半より

出演 橋本高校邦楽部

総勢二十一名の女子生徒たちが、全国
一位となつた曲を披露しに来寺してくれ
ます。複数の弦が織りなす響きに身を委
ねましよう！



《邦樂部プロフィール》

平成13年の高校邦樂部連盟大会で3位入
賞、以来13回連続上位入賞の名門。今年
度の全国大会では、念願の文部科学大臣賞
(優勝)を収めた。現在部員は橋本高校21名、
古佐田丘中学校13名。

七五三まいり

十一月中、七五三のご祈祷を行います。
お子様の健やかな成長を祈つてどうぞ
お参り下さい。



先祖供養の申し込み
先祖供養の申し込み用紙を同封させて
いただきました。
当日も受け致しますが、遠方のかた
は二十日までに送つて下さい。

十善戒を受けて仏のみ心にかなう生活
を送りましょう。
一年に一度の授戒をぜひお受け下さい。
白衣・念珠・おけさ持参
(お持ちでない方は寺でお求め下さい。)